

- トレーニングの日
- 不動産表示登記の日
- 不動産鑑定評価の日
- エイプリルフール

「ホップ栽培の疲れ」宮崎The との指摘も！ MIYASUPO スポ



毬花乱用・ 依存疑念 副原料 疑惑

醸造士 覚醒 乱用

**部下をまたたび漬け？
薬物で支配を画策？**

事情徴収では更に驚きの事実が判明した。かつては「醸造の鬼」と言われたほどの片伯部だが、今更なる部下からの突き上げに耐え切れず自信を喪失、部下が鬼のように見える幻覚症状にも悩まされていたという。

そんなある日の仕込みに事件は起きた。ひでじビールの品質管理責任者Mが仕込むビールに勝手に副原料を投入する片伯部容疑者！

「工場長何するんですか！ やめてください！」叫ぶMを眺め飛ばし投入したのは何やら黄金色に輝くフルーティなペースト。

「これでお前もM×M×Oじゃ！ このオニめ！」血走った目で叫ぶ片伯部。

「これこそは宮崎産オニマタタビ！」

「オ、オニマタタビ……？」

「猫にまたたび、鬼にオニマタタビ。これをキメたらお前も思うがままよ！ 鬼のヒヤッホー！ 誘惑にあがなげき副原料の闇に落ちた片伯部、もはや理性は通じない。上司を追い詰める鬼の部下、それをビールで支配せんとする工場長。ここはまさにビールの鬼たちのリング。緊迫の工場内には甘い香りが漂っていた……」

宮崎県延岡市、祖母傾山国定公園内行勝（むかばき）山の麓に位置するひでじビール醸造所の片伯部工場長（49）がなんだか大変だ。内部情報によると今更ながらホップの魅力に目覚め、本人曰く「覚醒済み」という。それはそれで良いのだが問題視されているのは原価を顧みないホップの乱用、そして更に恐ろしい事に「副原料への依存」も一線を越えた模様。かたから「地域と共に」と九州産、宮崎産原料を積極的に使用してきた醸造所ではあるが、「地域の為」と表では言いながら裏ではホップだけでは出せないフレーバーを副原料に求めるあまり、副原料使用割合が増加しまさに中毒状態。今回内部告発により任意連行された。

かくせいずみ
らんよう

かくせいずみ

M、恍惚の世界へ…

工場長の思惑通り？ 自業自得？

完成後、しこたまたま飲んだ品質管理責任者「森」のところにやんやん写真も入手。もまうかにも見られるが…実は実際にレシビを組んだのは森でないかという疑惑も有り、醸造所の間はふかまるばかりだ。

中枢神経を刺激か

「猫にまたたび」とは、またたびを与えられた猫がムロムロから生まれた言葉。しかし今更には「キウイ（オニマタタビ）だ。キウイでも猫がムロムロになるのだろうか？ 調査を進めると「キウイ」もマタタビ科の植物で、実際には葉っぱや根っこなどはマタタビ科の成分が多含まれており、成分効果により猫脳の中樞神経が刺激され、一時的に軽い麻痺状態になることが分かっている。キウイ栽培農家では葉や根を猫に痛めつけられる「猫毒」も報告されている。

新事実も次々と判明！ オニマタタビとは？

「オニマタタビ」とは何だ？ オニマタタビとはキウイ、それも醸造に使用された果肉種ゴールデンキウイの和名であった。なんでもキウイは元々中国原産、それをニュージーランドで栽培が盛んとなり多種多様の品種が生まれたラッデンキウイの中でも改良された品種らしいが、元々の和名は鬼木天葵、学名：Actinidia chinensis であり、一般的に多く出回っている緑のキウイの学名：Actinidia deliciosa 及び別名「ジョ、何故工場長がこの名前を知っていたのかは謎が残るが、工場長のスマホからはウイキペディアの閲覧履歴も確認されており、計画的犯行と見られている。



工場長は容疑否認

「俺はラガーが恋人」

ホップ依存、副原料乱用疑念を頑に否定する片伯部容疑者だが、長期取材では別の顔も見てきた。なんと疑念とは「おら、見てきたのはホップ、副原料に頼らないラガーシヨルなラガー」を追求するラガーマンの姿。取材では日々酵母の管理、醸造設備の清掃に明け暮れる姿が印象的。容疑者曰く「酵母様の環境を整えてきれいなペースを作るのが一番大事」とのこと、ただし今日は4月1日だ。何をどこまで信じるかは、あなた次第。

2023.4.1 発売!

宮崎県産 オニマタタビ使用 猫にまたたび、鬼には、オニマタタビ。

開き直り？ 実際に発売!

実際に発売と内部情報漏洩！

「キウイ」とは通常 果肉は使わずニュージーランド産のホップの特徴を生かしたホップ。しかし今回は「生キウイ」を使い、ホップはニュージーランド産の生キウイとホップの魅力により引き出すため、ハイジースタイルで仕上げたという情報。尚、「鬼復活」のイメージで、ハイジーマジックにはちよと昔めにしてあるそうだ。宮崎産キウイとN産ホップのハイブリッド。今からワクワク。

代表者！ 地元産原料 使用指示疑惑

今更なる使われたのは近年宮崎県で生産量が伸びているゴールデンキウイだが、地元産使用に際しては代表者永野の「地域と共に」という指示、関与も指摘されている。当社では大規模の栽培のみならず、大から麦芽加工する自家製麦芽、そして2016年からホップの栽培も行っており、ホップオーナー制度も近年実施。（募集中）このような行為が今回の疑惑をもたらしたことに疑問の余地はない。



追加取材 新着情報 下記特設 サイトで

広告欄

これはお酒です。飲酒は20歳になってから。